



秋庭 繁 議員

窓口負担なしの医療費無料化について

問 医療費の窓口負担なしの無料化をいつ実施するのか。市長選挙の公約であり、早急に具体化すべきだ。合わせて、臨時・非正規職員、特に保育士の正職員化、待遇改善をすべきだ。

答（市長） 医療費無料化については、必要経費の検証、財源の確保に努め、実施については、関係機関と調整し、わかりやすい制度設計を基本に、総合的に

検討を重ね、早急に行いたい。
答（総務部長兼危機管理監） 臨時・非常勤職員の処遇については、国の指針をもとに規定等を整備していく予定である。

就学援助費の年度内支給について

問 国（文科省）の指示で、援助金の増額（倍額）と年度内支給が決まった。すでに、他市で実施していたことが、なぜ古河市は出来なかったのか。

答（教育部長） 古河市就学援助費支給事務取扱要綱において定められている条件の場合、4月以前の入学前の支給は困難であった。今年度は、国の改正を踏まえ要綱の見直しを行っていききたい。

交通安全について

問 信号機設置は県の予算だが、県議が3人いて、信号機ひとつがつかないのは問題である。職員任せにせず、市長自ら県に働きかけるべきだ。

答（市長） 県への人脈を生かし、また、古河警察署へ古河市の要望を行っていききたい。

答（生活安全部長） 古河市では毎年6月に古河警察署長へ要望書を提出している。今後も引き続き、要望を行っていききたい。



信号機がなく危険な交差点



落合 康之 議員

公共交通の在り方について

問 高齢者ドライバーの重大事故が気にかかる。古河市の高齢者の免許保有率と免許返納率はどうか。ぐるりん号および既存の路線バスの利用状況、またこれらに対する公金の支出状況、そして公共交通利用者数向上の取り組みはどうか。

答（生活安全部長） 平成28年度末の免許保有率は約60%、約2万3,000人で、免許返納率は約

1%、200人弱となっている。

答（総務部長兼危機管理監） 平成28年度の利用者数はぐるりん号が計13万9,874人、民間路線バスが計50万7,737人となっている。公金の支出状況はぐるりん号に4,076万2,714円、民間路線バスに469万4,226円となっている。利用向上の取り組みとして、冊子の全戸配布を初め、駅構内でのティッシュの配布等を行っている。



ぐるりん号

コンを駆使して古河市が発信する情報を受け取れるのかも考えてあげなくてはならない。ぐるりん号の一日の利用料金が平均すると約3万円と伺っているので、PRするのにティッシュを配るのも3万円くらい製作費がかかると思う。国交省に聞いてみたら違法ではないということなので、無料で体験いただく日を設けてみてはどうだろうか。

答（市長） 周知するには効果的な案と思われるので、古河市公共交通活性化会議に諮り、準備を進めていきたい。

《その他の質問》

- ・県立文化ホール誘致について
- ・仁連地区新産業用地取得について

再質問 高齢者がスマホやパソ